【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成30年6月7日(2018.6.7)

【公表番号】特表2017-513532(P2017-513532A)
【公表日】平成29年6月1日(2017.6.1)
【年通号数】公開・登録公報2017-020
【出願番号】特願2017-507933(P2017-507933)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　1/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　1/20　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　1/14　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　1/38　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　1/00　Ｆ
Ｃ１２Ｎ　1/20　Ａ
Ｃ１２Ｎ　1/14　Ｃ
Ｃ１２Ｎ　1/38

【手続補正書】
【提出日】平成30年4月23日(2018.4.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
カゼイン消化物、ダイズ消化物、動物組織消化物、酵母抽出物、デキストロース、リン酸バッファー、ヘミン、およびＬ－シスチンを含んでなる組成物。
【請求項２】
２２℃において、前記組成物は固体である、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
前記組成物は粉末である、請求項２に記載の組成物。
【請求項４】
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間のカゼイン消化物を含んでなる、請求項２または３に記載の組成物。
【請求項５】
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、
(a)　約０．５ｇ／ｋｇ～約３００ｇ／ｋｇの間のダイズ消化物、
(b)　約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間の動物組織消化物、
(c)　約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間の酵母抽出物、
(d)　約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間のデキストロース、および／または
(e)　約８ｇ／ｋｇ～約４０ｇ／ｋｇの間のＬ－シスチン
を含んでなる、請求項２に記載の組成物。
【請求項６】
前記組成物は、
(a)　水性媒体への溶解時に０．１ｍｍｏｌ／（ｐＨ単位）～１００ｍｍｏｌ／（ｐＨ単位）の緩衝能を提供するのに十分な量のリン酸バッファーを含み、

(b) 約０．２ｇ／ｋｇ～約１ｇ／ｋｇの間のヘミンを含み、および／または
(c) 界面活性剤をさらに含む、
請求項２に記載の組成物。
【請求項７】
前記界面活性剤はポリソルベートである、請求項６に記載の組成物。
【請求項８】
２２℃において、前記組成物は液体またはゲルである、請求項１に記載の組成物。
【請求項９】
前記組成物は、
(a) 精製水をさらに含み、
(b) ヒツジ血液をさらに含み、
(c) ゲル化剤をさらに含み、および／または
(d) ７．３±０．５のｐＨを有する、
請求項１または８に記載の組成物。
【請求項１０】
(a) 前記組成物中の前記ヒツジ血液の濃度は、約５ｍＬ／ｋｇ～約２００ｍＬ／ｋｇの間であり、
(b) 前記ヒツジ血液は溶血ヒツジ血液であり、および／または
(c) 前記ゲル化剤は、寒天、ジェラン、アルギン酸ナトリウム、キサンタンガム、グアーガム、ゼラチン、アガロース、ポリアクリルアミド、およびリゾビウム属種（ＣＮＣＭ番号：Ｉ－１８０９）によって生産された多糖からなる群から選択される、
請求項９に記載の組成物。
【請求項１１】
(a) 前記組成物中のカゼイン消化物の濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間であり、
(b) 前記組成物中のダイズ消化物の濃度は、約０．０５ｇ／ｋｇ～約３０ｇ／ｋｇの間であり、
(c) 前記組成物中の動物組織消化物の濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間であり、
(d) 前記組成物中の酵母抽出物の濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間であり、
(e) 前記組成物中のデキストロースの濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間であり、
(f) 前記組成物は、０．１ｍｍｏｌ／（ｐＨ単位）～１００ｍｍｏｌ／ｐＨの緩衝能を提供するのに十分な量のリン酸バッファーを含み、
(g) 前記組成物中のヘミンの濃度は、約０．０１ｇ／ｋｇであり、
(h) 前記組成物中のＬ－シスチンの濃度は、約０．０１ｇ／ｋｇ～約０．５ｇ／ｋｇの間であり、および／または
(i) 前記組成物は界面活性剤をさらに含む、
請求項８に記載の組成物。
【請求項１２】
前記界面活性剤はポリソルベートである、請求項１１に記載の組成物。
【請求項１３】
(a) 前記ゲル化剤は寒天であり、および／または
(b) 前記組成物中の前記ゲル化剤の濃度は、固体では約１０ｇ／ｋｇ～約８００ｇ／ｋｇの間の前記ゲル化剤、液体またはゲルでは約５ｇ／ｋｇ～約２５ｇ／ｋｇの間である、
請求項１０に記載の組成物。
【請求項１４】
(a) 前記組成物は、トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタンを含まず、

(b)　前記組成物は添加ナトリウムを含有せず、および／または
(c)　前記組成物は消毒剤の中和剤をさらに含む、
請求項１に記載の組成物。
【請求項１５】
前記中和剤はヒスチジン、チオ硫酸塩、ポリソルベート８０、および／またはレシチンである、請求項１４に記載の組成物。
【請求項１６】
細胞集団を培養する方法であって、前記細胞集団の増殖を支援する条件下で、請求項8に記載の組成物と前記細胞集団を接触させることを含む、方法。
【請求項１７】
(a)　前記細胞集団は、膜の第１の面に配置され、前記膜の第２の面は、前記組成物と接触しており、
(b)　前記細胞集団内の１種以上の細胞は好気性生物であり、
(c)　前記細胞集団内の１種以上の細胞は嫌気性生物であり、および／または
(d)　前記細胞集団内の１種以上の細胞は、アシネトバクター属、アスペルギルス属、バチルス属、コリネバクテリウム属、デルマコッカス属、エシェリキア属、エクセロヒルム属、コクリア属、メチロバクテリウム属、ミクロコッカス属、パエニバチルス属、ペニシリウム属、プロピオニバクテリウム属、シュードモナス属、スタフィロコッカス属、ストレプトコッカス属、およびストレプトマイセス属からなる群から選択される属に属する、
請求項１６に記載の方法。
【請求項１８】
請求項8に記載の組成物を調製する方法であって、
ｉ）精製水、カゼイン消化物、ダイズ消化物、リン酸バッファー、デキストロース、動物組織消化物、酵母抽出物、ヘミン、およびＬ－シスチンを含んでなる混合物をオートクレーブ処理すること；
ｉｉ）所望により、前記混合物を冷却すること；
ｉｉｉ）所望により、前記混合物に滅菌水酸化カリウムまたは塩化水素を加えることによりｐＨを７．３±０．５に調整すること；および
ｉｖ）前記混合物にヒツジ血液を加えること
を含む、方法。
【請求項１９】
ｖ）前記混合物の色が赤色から褐色に変化するまで前記混合物の温度を約６５℃に保つこと
をさらに含む、請求項１８に記載の方法。
【請求項２０】
(a)　工程ｉｉ）における前記冷却は室温に冷却することであり、
(b)　工程ｉ）の前記混合物はゲル化剤をさらに含み、および／または
(c)　工程ｉ）の前記混合物は界面活性剤をさらに含む、
請求項１８に記載の方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７４】
他の実施形態は、下記を含む。
［項１］
カゼイン消化物、ダイズ消化物、動物組織消化物、酵母抽出物、デキストロース、リン酸バッファー、ヘミン、およびＬ－シスチンを含んでなる組成物。

［項２］
２２℃において、前記組成物は固体である、項１に記載の組成物。
［項３］
前記組成物は粉末である、項２に記載の組成物。
［項４］
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間のカゼイン消化物を含んでなる、項２または３に記載の組成物。
［項５］
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約０．５ｇ／ｋｇ～約３００ｇ／ｋｇの間のダイズ消化物を含んでなる、項２に記載の組成物。
［項６］
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間の動物組織消化物を含んでなる、項２に記載の組成物。
［項７］
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間の酵母抽出物を含んでなる、項２に記載の組成物。
［項８］
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約１ｇ／ｋｇ～約５００ｇ／ｋｇの間のデキストロースを含んでなる、項２に記載の組成物。
［項９］
前記組成物は、水性媒体への溶解時に０．１ｍｍｏｌ／（ｐＨ単位）～１００ｍｍｏｌ／（ｐＨ単位）の緩衝能を提供するのに十分なリン酸バッファーの量を含んでなる、項２に記載の組成物。
［項１０］
前記組成物は、約０．２ｇ／ｋｇ～約１ｇ／ｋｇの間のヘミンを含んでなる、項２に記載の組成物。
［項１１］
前記組成物の総質量から前記リン酸バッファーを除いて、前記組成物は、約８ｇ／ｋｇ～約４０ｇ／ｋｇの間のＬ－シスチンを含んでなる、項２に記載の組成物。
［項１２］
前記組成物は界面活性剤をさらに含んでなる、項２に記載の組成物。
［項１３］
前記界面活性剤はポリソルベートである、項１２に記載の組成物。
［項１４］
２２℃において、前記組成物は液体またはゲルである、項１に記載の組成物。
［項１５］
精製水をさらに含んでなる、項１または１４に記載の組成物。
［項１６］
ヒツジ血液をさらに含んでなる、項１または１４に記載の組成物。
［項１７］
前記組成物中の前記ヒツジ血液の濃度は、約５ｍＬ／ｋｇ～約２００ｍＬ／ｋｇの間である、項１６に記載の組成物。
［項１８］
前記ヒツジ血液は溶血ヒツジ血液である、項１６に記載の組成物。
［項１９］
前記組成物中のカゼイン消化物の濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間である、項１４に記載の組成物。
［項２０］
前記組成物中のダイズ消化物の濃度は、約０．０５ｇ／ｋｇ～約３０ｇ／ｋｇの間である、項１４に記載の組成物。

［項２１］
前記組成物中の動物組織消化物の濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間である、項１４に記載の組成物。
［項２２］
前記組成物中の酵母抽出物の濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間である、項１４に記載の組成物。
［項２３］
前記組成物中のデキストロースの濃度は、約０．１ｇ／ｋｇ～約５０ｇ／ｋｇの間である、項１４に記載の組成物。
［項２４］
前記組成物は、０．１ｍｍｏｌ／（ｐＨ単位）～１００ｍｍｏｌ／ｐＨの緩衝能を提供するのに十分なリン酸バッファーの量を含んでなる、項１４に記載の組成物。
［項２５］
前記組成物中のヘミンの濃度は、約０．０１ｇ／ｋｇである、項１４に記載の組成物。
［項２６］
前記組成物中のＬ－シスチンの濃度は、約０．０１ｇ／ｋｇ～約０．５ｇ／ｋｇの間である、項１４に記載の組成物。
［項２７］
界面活性剤をさらに含んでなる、項１４に記載の組成物。．
［項２８］
前記界面活性剤はポリソルベートである、項２７に記載の組成物。
［項２９］
ゲル化剤をさらに含んでなる、項１または１４に記載の組成物。
［項３０］
前記ゲル化剤は、寒天、ジェラン、アルギン酸ナトリウム、キサンタンガム、グアーガム、ゼラチン、アガロース、ポリアクリルアミド、およびリゾビウム属種（ＣＮＣＭ番号：Ｉ－１８０９）によって生産された多糖からなる群から選択される、項２９に記載の組成物。
［項３１］
前記ゲル化剤は寒天である、項３０に記載の組成物。
［項３２］
前記組成物中の前記ゲル化剤の濃度は、固体では約１０ｇ／ｋｇ～約８００ｇ／ｋｇの間の前記ゲル化剤、液体またはゲルでは約５ｇ／ｋｇ～約２５ｇ／ｋｇの間である、項３０に記載の組成物。
［項３３］
前記組成物は、７．３±０．５のｐＨを有する、項１または１４に記載の組成物。
［項３４］
前記組成物は、トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタンを含まない、項１に記載の組成物。
［項３５］
前記組成物は添加ナトリウムを含有しない、項１に記載の組成物。
［項３６］
消毒剤の中和剤をさらに含んでなる、項１に記載の組成物。
［項３７］
前記中和剤はヒスチジン、チオ硫酸塩、ポリソルベート８０、および／またはレシチンである、項３６に記載の組成物。
［項３８］
細胞集団を培養する方法であって、前記細胞集団の増殖を支援する条件下で、項１４に記載の組成物と前記細胞集団を接触させることを含む、方法。
［項３９］

前記細胞集団は、膜の第１の面に配置され、前記膜の第２の面は、前記組成物と接触している、項３８に記載の方法。
［項４０］
前記細胞集団内の１種以上の細胞は好気性生物である、項３８に記載の方法。
［項４１］
前記細胞集団内の１種以上の細胞は嫌気性生物である、項３８に記載の方法。
［項４２］
前記細胞集団内の１種以上の細胞は、アシネトバクター属、アスペルギルス属、バチルス属、コリネバクテリウム属、デルマコッカス属、エシェリキア属、エクセロヒルム属、コクリア属、メチロバクテリウム属、ミクロコッカス属、パエニバチルス属、ペニシリウム属、プロピオニバクテリウム属、シュードモナス属、スタフィロコッカス属、ストレプトコッカス属、およびストレプトマイセス属からなる群から選択される属に属する、項３８に記載の方法。
［項４３］
項１４に記載の組成物を調製する方法であって、
ｉ）精製水、カゼイン消化物、ダイズ消化物、リン酸バッファー、デキストロース、動物組織消化物、酵母抽出物、ヘミン、およびＬ－シスチンを含んでなる混合物をオートクレーブ処理すること；
ｉｉ）所望により、前記混合物を冷却すること；
ｉｉｉ）所望により、前記混合物に滅菌水酸化カリウムまたは塩化水素を加えることによりｐＨを７．３±０．５に調整すること；および
ｉｖ）前記混合物にヒツジ血液を加えること
を含む、方法。
［項４４］
前記混合物の色が赤色から褐色に変化するまで前記混合物の温度を約６５℃に保つことをさらに含む、項４３に記載の方法。
［項４５］
工程ｉｉ）における前記冷却は室温に冷却することである、項４３に記載の方法。
［項４６］
工程ｉ）の前記混合物はゲル化剤をさらに含んでなる、項４３に記載の方法。
［項４７］
工程ｉ）の前記混合物は界面活性剤をさらに含んでなる、項４３に記載の方法。
他の実施形態は特許請求の範囲に含まれる。